

農業



平成26年9月号
会誌 No. 1589

目次

巻頭言

共感する若者たち……………夏秋 啓子 3

論 壇

望まれるリンをめぐる意識改革……………西尾 道徳 4

農業懇話会

農業法人における ICT 活用と経営革新……………南石 晃明 6

平成25年度 食料・農業・農村白書……………八百屋市男 30

研究の最前線

新しい乳酸菌で作ったヨーグルトで健康社会を目指す……………木元 広実 43

農業・農村の現場から

宇治茶産地で紅茶を作る……………古谷 千絵 54

－京都・南山城村茶農家の取り組み－

世界の農業は今

ネパールにおけるヤクの飼養……………熊谷 元 60
安在 弘樹

農政情報…………… 65

大日本農会だより…………… 66

表紙写真説明

決断の産地づくり（岡山県新見市豊永地区）

岡山県新見市の豊永地区は、戦前から葉タバコ栽培が盛んで、昭和50年代後半には年間総販売額が12億円以上と全国屈指の産地だったという。こうした絶頂期にあって、昭和58年度に畑地灌漑施設が完成したことを期に、写真の吉岡さんたちは、将来を見据えて昭和61年からピオーネ栽培に転換を始めた。葉タバコは、減反や連作障害、過重な労働等に苦しめられていた背景もあったようだが、豊永地区は標高400m程度の台地に位置し、昼夜の温度差は、高糖度で着色の良いブドウの栽培に適していた。そしてなんと、樹園地の地表に、冬場に山から採取した沢山の落ち葉とその上に裁断されたカヤ（園地のそばで栽培されている。）が一面に敷き詰められている光景には驚かされる。除草剤なしで雑草が全く生えておらず、毎年ダガーでエアレーションを行っている。この土づくりへのこだわりは、なかなか真似のできないことだ。

現在、豊永地区の300戸のうち100戸が高品質な種無しピオーネを栽培する優良産地として市場の高い評価を得ている。

吉岡さんは、これまで数々の賞を受賞し、昨年は当会の農事功績者表彰である「緑白綬有功章」を受章された。現地を訪問して伺った話は、調査に行かれた駒村研三氏が本誌12月号で紹介する予定である。

(写真／説明：編集部)